

外国語科MYPの取り組み その6

育成すべき/したい資質・能力と観点別評価に基づいた多様な探究型授業（資料編）

An Approach to MYP Part6

Competencies and Abilities to Be Developed and Various Inquiry-based Lessons Using Criteria Assessment

外国語科

秋森久美子 雨宮真一 上木多加志 後藤葵 小松万姫
徳初美 藤野智子 星野あゆみ 前田健士
手塚史子 中野千恵

はじめに

2014年6月21日に行われた第4回公開研究会において、IBの理念と本校の教育目標に基づいた外国語科カリキュラムのあり方について振り返りを行った。外国語科では、4つの「育てたい生徒像」と4つの「評価規準」に従い、2つの大きな特徴、「逆向き設計型授業（方法）」「探究型授業（内容）」を中心にしたカリキュラムに取り組んできた。これら2つの要素を持った授業が、育成すべき資質・能力を養うことに貢献できるのではないかと考え、生徒対象アンケート、外部英語試験から考察を行った。生徒の具体的な記述やコメントから、IB learner profile、本校の育てたい生徒像、グローバルな世界で求められる資質・能力、学習指導要領の生きる力は、普段のさまざまな授業で養われることの可能性を示唆しており、またその授業スタイルこそが、生徒の英語運用能力を高めることに効果があるであろうことが読み取れた。

分科会では、外国語科研究テーマ『本校の育てたい生徒像』を育成するために、MYP評価規準Bのビジュアル・インタープリテーションで養える力を活用する」についてワークショップを行った。目的目標を明確にし、評価規準、ルーブリック、ストランドに即した評価課題を、当日参加者同士がグループになって作成した。具体的な活動を通して見えてくる課題や観点別評価と探究型授業の意義を実感していただけたのではないかと思います。

本稿では、分科会で示した当日資料の一部を紹介したい。

- 【資料Ⅰ】 生徒は、英語学習を通してどのような「資質・能力」が養われたと評価しているか
- 【資料Ⅱ】 多様な評価課題 学期末に配布するレポートカード（例）
- 【資料Ⅲ】 生徒は「英語力」に関してどう実感し振り返っているのか
- 【資料Ⅳ】 外部資格試験からみる本校の生徒の英語力はどのぐらいか
- 【資料Ⅴ】 生徒は、評価規準B ビジュアル・インタープリテーションをどう評価しているか
- 【資料Ⅶ】 ビジュアル・インタープリテーション・ワークショップ教材

出典：Time Out Tokyo Nov 2013-Jan 2014 TIMEOUT.COM/TOKYO

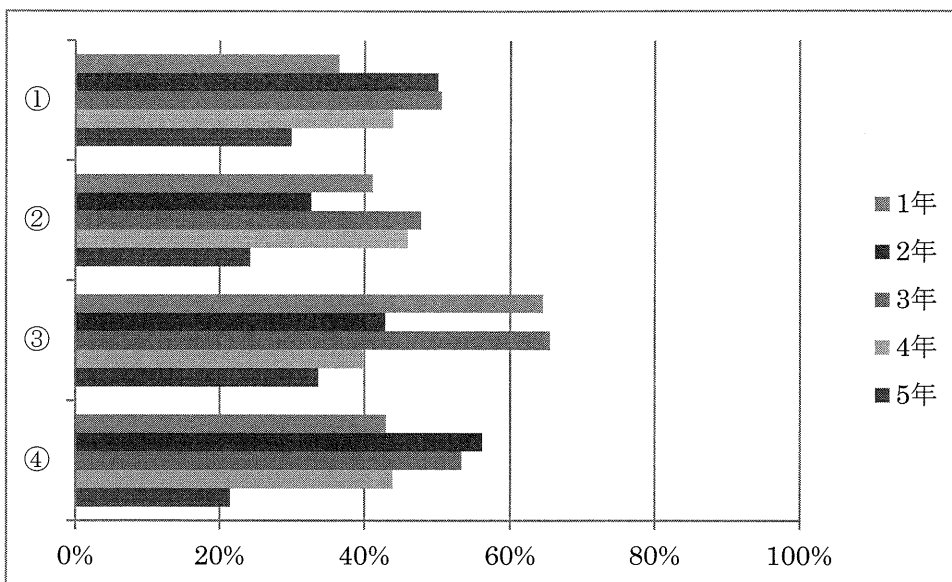
＊【資料Ⅰ】【資料Ⅲ】【資料Ⅴ】（2014年3月アンケート実施 第1～第5学年 623名）

【資料Ⅰ】

生徒が評価する英語学習を通して養われたと思う「資質・能力」は何か。

7 英語の授業を通して、伸ばすことのできた力や態度は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ①現代的な課題を読み解く力
- ②知識とイメージを再構成する力
- ③対話を通して人との関係を作り出す力
- ④異文化への寛容・耐性



8 それはなぜですか。あなたが体験した英語の授業の中から、力や態度を伸ばすことができた具体的な学習活動例があれば、一つ選び説明してください。

A: アドバンストクラス B: ベーシッククラス C: コアクラス

①現代的な課題を読み解く力

- ・アンネ・フランクの学習では、彼女の生きていた時代のドイツやオランダと現代社会を比べた。また、現代抱えている課題について討論した。(3年 C)
- ・英字新聞の読み取りの授業で、1つのニュースに関して様々な国で様々な考えが見られ、その考えを見られればよりよい判断ができるようになると思います。(3年 C)
- ・ウミガメの問題ではウミガメが減った理由を読み解いて考えることができた。(1年 C)

- ・絶滅危惧種についてリサーチやトークをしたことで現代社会の問題などを考えることができた。(1年C)
- ・“TV Shopping”のプレゼンの学習では自分の身の回りの問題を見つけ、その問題解決のための商品を考えました。(1年C)
- ・歴史的な事象から現代の課題について考えた。(1年A)
- ・マララさんのスピーチを暗唱するために何度も読んだことで、イスラムの現状を考えた。(1年A)
- ・児童労働について学習したときに、その背景には様々な要因があることを知り、他の現代的な課題の裏にも様々な要因があるのではないかと考えることができるようになった。(2年A)
- ・これまで自分が全く知識のなかった児童労働について学び、今では自分が食べ物などを買うときに気を遣ったりするなど、態度を変える意識をするようになった。(2年A)
- ・Photojournalism の学習では、まず、写真を見て自分が考えたことをまとめてから、写真の解説を読んだ。現代の問題について、自分の考えと違った視点についても理解していくことができた。(2年A)
- ・TEDtalk を行ったときは、現代的な課題を自分のアイディアで紹介しながら、解決方法を提案した。(3年A)
- ・The Lottery や 1984 などの文学を読み、今の社会とどのように結びついているかを考えることで、現代社会の課題について考えることができた。また、TEDtalk や一学期に行った Bioethics の Research paper も、現代社会の課題を理解する学習であった。(3年A)
- ・現代的な問題を英語での授業では多く取り扱い、その度に現代の様々な問題に関心を持ち、分析するから (4年B)
- ・インタビューテストでは調査したことを自分の言葉になおし、人に伝えることができた。また、人種差別について調査をしていくことでより深く考えたり、その人の立場に立って問題を考えていくことができた。(4年B)
- ・エッセイテストやスピーキングテストでは、現代の課題を見つけ、解決方法などを考え、それをエッセイやスピーチに織り込むことを行ったことで、現代的な課題を読み解く力が伸びた。(4年B)
- ・授業を通じて単に英語力を習得するだけでなく、単元ごとの Unit Question などを含め、様々なことについて考え、理解する姿勢が身に付いた。(4年B)
- ・人種差別や核兵器について学習をした際に、非常に多くの現代的な課題を読み解いた。(4年B)
- ・“Of Mice and Men”のエンディングを作り変えてみたことで、「人とは何なのか」について考えたり、話を発展させる力が伸ばせました。(5年)
- ・新聞記事を読みながら死刑やバイオテクノロジーについて学び話し合った。海外の新聞を取り扱い、様々な視点から課題を読み解ける力が伸ばせた。(5年)

- ・ CBS ニュースを見て現代の問題を知り、それに関するパッセージを読み、自分の考えや解決策などをまとめた。(5年)

②知識とイメージを再構成する力

- ・ 多くの新しい vocabulary や grammar を学びました。そのおかげで essay や speech の際には新しく習ったものを使えました。Essay だったら writing 内で書ける単語や grammar のおかげで今までとは違う表現の仕方など。Speech だったら、自分の思いをより深く正確に聞いている人たちに伝えるために、ここでもやはり vocabulary と grammar を効果的に活用できました。新しく得た知識で自分の中の英語の世界が広がったと思います。(3年 C)
- ・ ライティング活動を通して、ただ思っていたこと、考えていたことを文章にしてまとめる力がついた。(3年 C)
- ・ “The Teacher” (生徒教育実習) では、知識を他の生徒に分かるようにイメージさせて伝えなくてはならない。そのことで、私たち自身の知識が身に付き、生徒もイメージを再構成する力を養うことができた。(3年 C)
- ・ 沖縄 (ワークキャンプ) に関連するすごろくを製作するにあたって、知識をさらに深めることができ、イメージを再構成する力が養われたと思います。(3年 C)
- ・ ポスター紹介やミニディベートなどで自分の考えをより伝えやすくする工夫をしました。相手を引き付ける方法を学んだから。(1年 C)
- ・ 歴史を学び直したことから差別とその影響について考えることができた。(1年 A)
- ・ 差別の單元では自分のもっている歴史に関する知識や自分の持っている他者のイメージを何度も振り返って考えた。(1年 A)
- ・ 様々なプレゼンをするにあたり、調査、探求、分析や考察をし、知識や概念を具体的に他者に伝わるイメージと共にプレゼンに構成していった。(3年 A)
- ・ 例えば同じ日本社会の話題にしても、日本語で話し合うのと英語で話し合うのでは、自分の意識が全く違うことに気づいた。英語で話すことで、日本社会を客観的にみることができ、日本語で持っていたイメージが再構成された気がする。(3年 A)
- ・ 英語で聞いたことを、自分が日本でこれまで学んできたことと知識からイメージして、それらを組み合わせて話を理解していく力を養っている。(2年 A)
- ・ クラスの前で友人と 2 人でディスカッションをした際、元から自分の持っていた知識と、ディスカッションの題材の説明と、そこからわかるものを自分の中で合わせて再構成する力がついたと思う。(4年 B)
- ・ 即興型スピーチややりとりはその場で考えるため、今ある知識を使ってどのように相手に伝えるのかということに取り組むから、力を伸ばすことができたと思う。(4年 B)
- ・ ライティングなどの活動では、与えられた情報や自分の知識から自分の考えを築き上げていくことができた。(4年 B)
- ・ 昔起きた出来事を、写真を使って振り返り、それをさらに発展して、現代の社会問題に

ついてディスカッションするテスト。(4年B)

・ディスカッションやエッセイなどで、自分の持つ情報をまとめて、書きたいこと、話したいことに合うように情報を活用することができた。特に3年の時に行ったディスカッション、スピーチテストでその力が伸びた。(4年B)

・ヴィジュアル・インタープリテーションや即興エッセイでは、そこにある情報と自分の知識と英語力を活かして再構成した。(4年B)

③対話を通して人との関係を作り出す力

・ディスカッションやディベートなどでコミュニケーションをとる活動ができ、人との関わりや世の中への関心をもつようになった。(3年C)

・授業内では友達と英語で話す活動が多くありました。クラスの多くの人との対話のできたのでコミュニケーション力がついたとともに関係を作り上げることもできたと思います。(3年C)

・授業で”Cool Japan”や”Nobel Novel Prize”などの毎回続けて行ったペアでのコミュニケーション活動がものすごくこの力を伸ばすのに役立ったと思う。(1年C)

・新聞の見出しについて学習した時に、読む人を意識することを学んだと思う。(1年A)

・グループワーク、ペアワークなど仲間と話し合ったり、協力することでチームとしての関係をつくることができた。(1年A)

・授業でディベート形式で発見したり、即興で自分の気持ちを伝えることで、相手とぶつかったこともあったけど、共通点を見つけていい会話ができた。(5年)

・プレゼンやインタビューテストの前に、どのようにしたら相手に自分の考えを伝えられるかを考えられるようになりました。(5年)

・私は人とコミュニケーションをとることが得意なほうではなく、自分の考えをうまく相手に伝えられないことが多かった。しかし、中学に入ってから、1対1のテストができたことによって、英語ではあるが、少しずつ即興で考えを述べる力がついたと思う。(2年C)

・World Heritage Sites の授業で、Advanced の人のプレゼンを見て、英語で質問するという活動で、緊張はあったものの、積極的に対話できるように心がけることができた。(2年C)

・Core の人にプレゼンをした際、英語で難しい表現で伝えることよりも、どうしたら相手により分かってもらえるかを考えることがプレゼンで一番大事なことだと気づくことができた。(2年A)

・英語で話し合う授業で伸ばせたと思います。英語で話すときは、分からない単語がたくさんあるし、日本語のようにうまくはいきません。しかし、その中で頑張って話そうとすることで、相手に伝える力もついたと思うし、知っている単語をうまく使って難しいことを少しでも簡単にして伝えられるようになったと思います。そして、これらは人と関係を作り出していく上で大切なことだと思います。(2年C)

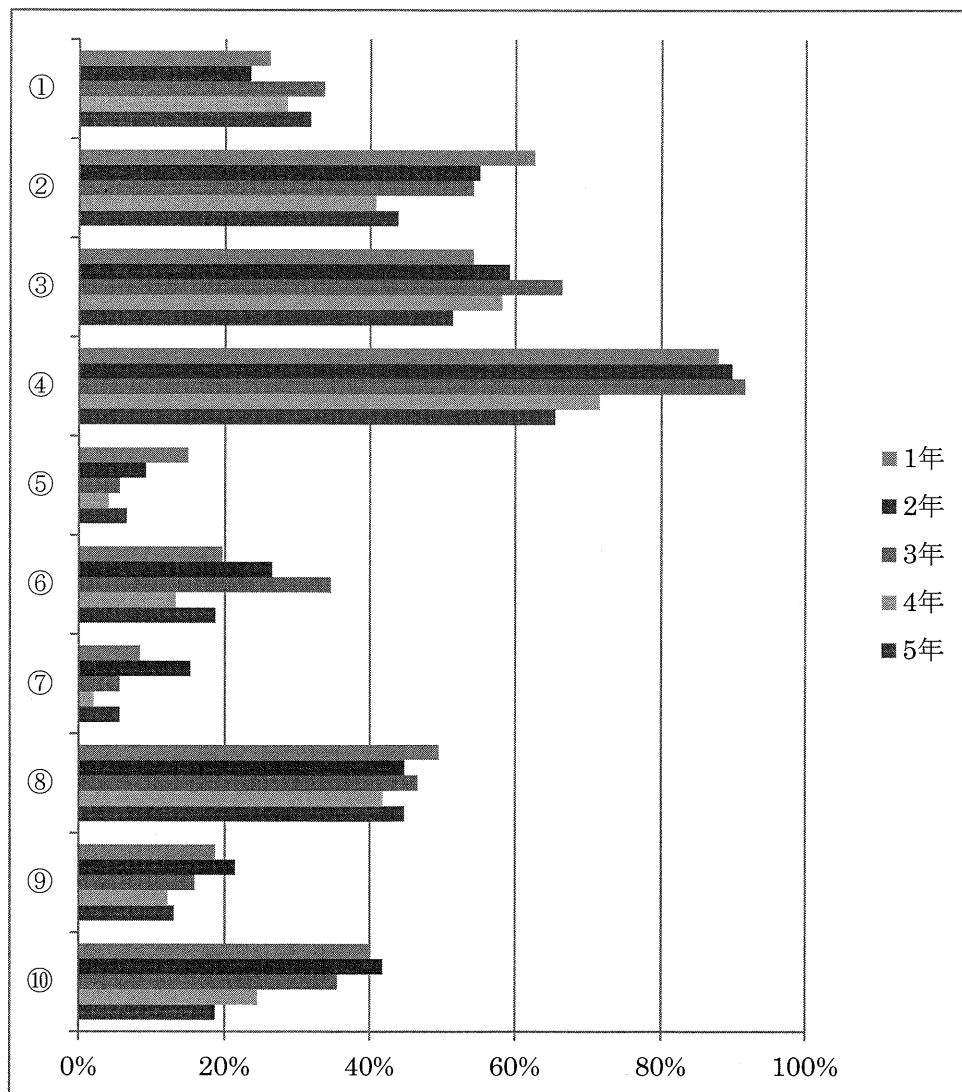
- ・3年生の時の“The Teacher”では、友達と意見を交わしながら取り組むことができたから。(4年B)
- ・普段から一対一もしくはそれ以上の人と英語でコミュニケーションをとる練習をしていたため、アメリカでも外国の友達をつくることができた。(4年B)
- ・議題についてグループごとにディスカッションする授業では、相手の意見に対する反応を示すことも必要であり、自分と違う主張を持つ人とどのように話し合えば良いのか学習した。(4年B)

④異文化への寛容・耐性

- ・国の習慣や文化の違いについてプレゼンする機会があった。(3年C)
- ・中学2年生のときに行ったアドバンストクラスの世界遺産についてのスピーチプロジェクトでは、様々な世界遺産を知り、異文化への興味をもったことに加え、アドバンストの人々の様々な英語に触れることで、彼らの異文化的要素を感じることができた。(3年C)
- ・“Our Diverse Planet”で違う文化を持つ人のことを調べたことで、いろいろな人がいろいろな文化を持つことがわかり寛容性ができたと思う。異文化に触れて新鮮だった。(1年C)
- ・第二次世界大戦中の日系人に対する差別とその影響を学んで、異文化を受け入れる力を伸ばせたように思う。(1年A)
- ・Disappearing Languages がなぜ起こっているのか、どのような国や地域の言語がどのような危機にあるのかを学ぶことができ、視野が広がった。(2年A)
- ・Mother Teresa の学習では文化の違いにより苦しい思いをした人、している人について知った。また、それを救おうとした素晴らしい人物がいるということ、今自分にできることについて深く考えさせられた。(2年C)
- ・1年生の時には異文化に対して驚いたりして、時々、理解できなかったと思っていたこともあったと思う。しかし、英語学習を通して、中でも異文化に関する映像を見ることによって、自分の小ささを感じた。(4年B)
- ・“Two Dreamers, One Dream” の学習で調査を多くし、アメリカ合衆国、南アフリカ共和国の過去について学ぶことができ、その頃の人の考えなども知り、視野を広げることができた。(4年B)
- ・(日本人教師が教える)授業中の英語や English Expression でネイティブの先生と交流することにおいて、英語をもっと話せるようになりたいと思ったり、外国へ行きたい、海外の人と交流したいと思えるようになった。(4年B)

9 英語の授業を通して、目指すことができた IB Learner Profile は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ①探究する人
- ②知識のある人
- ③考える人
- ④コミュニケーションできる人
- ⑤信念のある人
- ⑥心を開く人
- ⑦思いやりのある人
- ⑧挑戦する人
- ⑨バランスのとれた人
- ⑩振り返りのできる人



10 それはなぜですか。あなたが体験した英語の授業の中から、learner profile を目指すことができた具体的な学習活動例があれば、一つ選び説明してください。

① 探究する人

- ・“Okinawa Board Game”を作った時に、沖縄の食や文化、言語などについて深く探究し考えたから。(3年 C)
- ・安楽死 (euthanasia) について research paper を書いたとき、様々な情報から問題となっていることがらの核は何なのかを探究する人として調査をすることができた。(3年 A)
- ・インタビューテストのためにレッスンで学んだ内容について調査した。(4年 B)
- ・プレゼンなどの学習では、多くの探究 (リサーチ) を行った。そこでは、必要な情報だけを入手する力がついた。(4年 B)
- ・Child labor、Execution について3か月くらいの期間をかけて研究した。(5年)

② 知識のある人

- ・実際のことを事例に授業を進めることが多かった。またそれをもとにディスカッションなどでもしたので、新しいことや考えを得ることができた。(3年 C)
- ・ミニリサーチ活動で様々な資料を調べて知識を自分で得られた。
- ・国際的に活躍する人になるためには、英語を伝えるだけでなく、知識を持った上でそれに対しての主張をちゃんと伝えられる人にならなければいけないからです。(3年 A)
- ・英語を介すことで、日本語のリサーチだけでは手に入らない様々な世界的な常識を入手することができる。(3年 A)
- ・文法や単語を習ったり、教科書を読んでいくうちに、そのような知識や単元自体の知識が身に付いた。(4年 B)
- ・“Two Dreamers, One Dream” の学習では、差別という問題について知識も広げることができ、またそのことについて深く考える機会となった。(4年 B)
- ・キング牧師、オバマ米大統領、ローザ・パークス、ネルソン・マンデラの4人になりきってのインタビューテストでは、その準備として彼ら4人の生き方や考え方を調べることで、より深い知識を得ることができた。(4年 B)
- ・プロジェクトに必要な情報を調べることで広い知識を得る。(4年 B)

③ 考える人

- ・各プレゼンテーションは、自分が伝えたいことが何で、そのためにどんな例を説明してどのくらいわかりやすい単語を使って・・・とにかくたくさん考えました。(3年 C)
- ・プレゼンテーションで一つの課題に対して多面的に見ていろいろな考えを導き出しそれをみんなの前でわかりやすく伝えることができたと思うので。(3年 C)

- ・単元クエスチョンに興味深かったので、深く考えることができた。(1年A)
- ・LEの時間でビジネスプランを考えたとき、どうしたらより良いビジネスになるかを多角的に考えることができた。(2年A)
- ・夏休みの宿題で、読んできた英語の本のあらすじなどをポスターにしたとき、どのようにしたら分かりやすいか、どのようにしたら見やすいかなどを色々と考えて作った。(2年C)
- ・英語の授業では、はっきりとした「正解」がなく、一人ひとりが自分の持つ知識や経験に基づいて考えて答えを導き出す必要があるものが多い。(2年A)
- ・「海の森プロジェクト」について学習した時に、そのプロジェクトについて調べ、自分なりに考え、その考えをディスカッションした。(4年B)
- ・エッセイテストを通して自分の考えを言葉にすることができた。(4年B)
- ・どの単元でも、文章を理解するだけでなく、自分でちゃんと考えられる人にならないと読み深められなかったから(4年B)
- ・Lesson 8 “Good Ol’ Charlie Brown”では、漫画にどのような思いが込められているのかを本文とともに考えていくことができた。(4年B)
- ・定期考査ではよく考えて問題を解くことが大切だった。(4年B)
- ・プレゼンテーションやディスカッションが多く、毎回自分の意見をまとめるべく考えて、文章にし、発表形式にまとめることができた。(4年B)
- ・第四学年では、世の中の自然、人々について考える機会も多く、テストのためのリサーチも含め、自分たちにできることを考えた。(4年B)
- ・オバマ大統領やキング牧師などについて学んだことから、「人権」や「自由」になどについて深く考えることができた。(4年B)
- ・ただ先生が話す形式ではなく、必ず毎回自分の考えを持ち、それをクラスに向けて発表する／グループの意見をまとめて発表する、という普段の授業から、Learner Profileを目指すことができた。(4年B)

④コミュニケーションできる人

- ・ディベートの活動で、プレゼンなどでは自分の意見がしっかりあれば良いけれど、相手の意見も聞き入れなければいけなかった。自分の主張もしながら相手も受け入れ考えていくことが大切だと学んだ。(3年C)
- ・プレゼンテーションや自分の意見を書く writing のテストが多かったので自分が何を思っているのか何を伝えたいのかをしっかりと伝えられるようになろうと頑張ったから。(1年C)
- ・“Super Presentation”などを通して交流したり話し合ったりできた。ペアワークやグループワークでいろいろな人と交わって学習することでコミュニケーション力を鍛えられた。(1年C)
- ・英語は言語なので、自分から積極的にコミュニケーションをとろうとしていくことが大

事だと思う。(2年C)

- ・アメリカに住んでいた頃は毎日英語を話していたので、今よりは言語としてはペラペラだったと思うけれど、この学校で色々と学び経験したからこそ、今ではもっとコミュニケーションが取れる人になっていると思う。(2年A)

- ・コアクラスの人に World Heritage Sites のプレゼンをしたときに、相手が理解できるように、と常に意識してプレゼンをし、本当のコミュニケーションができる人は、相手に理解できるように話す、ということが分かった。(2年A)

- ・10の課題をそれぞれ異なる2名で取り組んだので、それぞれの得意分野を生かして作業効率を上げられるように役割分担の相談をできた。(1年A)

- ・ディスカッションを通して、相手と自分とのアイデアを交換したり、共有したりすることができて、より関係が深まったから。(4年B)

- ・ディスカッションやディベートなどの活動により、ただ考えるだけでなく、それを英語を用いて他者に向けて発信し、また他者の考えを聞き入れるといった英語でのコミュニケーション能力を向上できたから。(4年B)

- ・毎回ワークシートに自分の考えを書き、授業でディスカッションをしてアイデアをシェアした。(4年B)

- ・英語を用いて国際問題を考えられたから。(4年B)

- ・自分たちが選んだ二つの写真(20世紀の明るいところと暗いところ)について他の人に説明したり、他の人が選んだ写真について議論したりして、コミュニケーションをとることができた。(4年B)

- ・(三年次の) The Teachers は自分たち対他の生徒の状況でいろいろな構成を考えて授業を行わなければならなかったのも、会話を続けるコミュニケーション力などが鍛えられた。(4年B)

- ・カナダのワークキャンプで文化の違うカナダ人とコミュニケーションを取ろうと努力できた。(5年)

⑤信念のある人

- ・差別のことを学んだことで他人のことを決めつけることをやめた。(1年A)

- ・ディスカッションの時に自分の考えを持ち続けることを学んだ。(1年A)

- ・周囲に流されないようにしようと思った。(1年A)

- ・アドバンスの人たちのプレゼンへのQ&Aで、「相手に伝えたい」という信念があれば、英語が多少下手でもコミュニケーションが成り立つことを学んだ。(2年C)

⑥心を開く人

- ・英語を用いて普段しゃべらない人とも積極的に話をしたから。(3年C)

- ・日本とはかなり違う世界の状況を驚きながらも受け入れることができた。(1年A)

- ・授業を全て英語で受けることを通して、英語という外国の言葉に対して心を開けたと思うし、また、それによって外国の人々や文化などにも興味を持ち、心を開くことができた。(2年C)

- ・ただでさえ母語でない英語では、心を閉ざしてしまったり、内向的になりがち。だからこそ、プレゼンやスピーキングテストなどで、心を開いてより積極的にいこうと思った。(4年B)

- ・ディスカッションやプレゼンテーションで、英語を恥ずかしがらず話すことができた。(5年)

- ・どんどん発言しなければいけない場面が多くあったので、心を開いて相手と気軽に会話ができるようになったと思う。(5年)

⑦思いやりのある人

- ・ディスカッションの際、自分の意見を言うのに一生懸命にならずに他のメンバーの意見をしっかりと聞いたり、参加しにくそうにしている人には声をかけたりした。(3年C)

- ・マザーテレサの半生について学ぶことで、人を思いやることの大切さについて学習した。(2年C)

⑧挑戦する人

- ・ディスカッションやディベートを何回もしていく中で、間違っているかもしれないけれどとりあえず自分の意見を伝えようと思い伝えることができました。(3年C)

- ・今までやったことのなかった英語でのプレゼンやトーク、英検など様々なことに挑戦したのでこれを目指すことができたと思います。(3年C)

- ・クレイグ・キールバーガーについて調べた時、彼のように世界の人々を助けるためには何をしたらいいのかを考えた。(1年A)

- ・プレゼンなどが多く、最初は慣れなかったけれど、常に自分の英語のレベルよりも上のことに挑戦するという習慣がついた。(2年C)

- ・3年生の時に行った“The Teacher”は、自分が先生となって皆に授業をするというもので、初めてでとても緊張したけれど、新たなことに挑戦できて良かった。(4年B)

- ・スピーチやディスカッションなど、初めは全然上手にできなかったし難しかったけれど、何度も挑戦することで少しずつできるようになった。(4年B)

- ・字幕翻訳は、がんばって挑戦し、入賞することができた。(4年B)

- ・カナダ・バンクーバーのワークキャンプに向けて、OCの授業選択で発言がメインになる授業を選び、話す力をつけようと挑戦することができた。(5年)

- ・シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」の学習はレベルが高かった。演じることに挑戦できた。(5年)

- ・“If I were the leader of...”という課題のスピーチにおいて、できるだけ科学的で説得力が

あり、本物のスピーチに見せるよう挑戦できた。(5年)

⑨バランスのとれた人

- ・ディスカッションでは相手と上手くコミュニケーションをとるために、心を開いたり相手の意見もしっかりと尊重するためにバランスのとれた人を目指せたと思います。(3年C)
- ・ただ座って知識を習得するだけではなく、LEやinterview、discussionなどの話すことを実践する場を有効活用することによって、様々な面からみた「英語ができる人」に近づけている。(2年C)
- ・授業で取り上げられてもののほとんどは、まだ知らなかったテーマについてだったので、新しいものを考えることができた。(4年B)

⑩振り返りのできる人

- ・終業式に配られるレポートカードの中のリフレクションは、その学期に行った活動のことをよく振り返って記入するため。(3年C)
- ・英語は振り返りが大切と思いできなかったところを復習した。(1年C)
- ・TEDtalkでは、まず問題について調査し、知識をつけ、それを自分の言葉でまとめ、スピーチをしました。そして、スピーチで失敗してしまったことを受けて、どのようにしたらより伝わりやすい、インパクトのあるスピーチにすることができるのかを学びました。(3年A)
- ・英語のテストなどが終わった後に、どの力が足りなかったのかなど振り返って分析することができた。(4年B)
- ・ニュースをみてエッセイを書く活動で、自分の人生を振り返ったり、経験から有用な情報を選び出したりした。(5年)
- ・自分の学習を振り返ることは一つの課題における自己反省のみならず、さらにどのようにもっと高いレベルにもっていけるか、持っていくべきなのか自分の中で整理できる。整理することで英語でも「書く」「読む」「話す」「聞く」能力がどのくらい欠けているのか気付くことができ、英語の上達につながった。(5年)

【資料Ⅱ】

多様な評価課題 学期末に配布するレポートカード（例）

TGUISS YEAR1 Language B (English) Core TERM 2 grades



class	2	no.		name	
critrion	assignment	grade	critrion	grade	Reflection
A /8	Listening test	8	7	7	Impromptu Speech は色々な物事のよさについて考えて、話すことの練習ができました。Nobel Novel Prize では、様々な本を読んで、英語の楽しさを味ねました。これから英語の学習を通して沢山のことに挑戦してみたいです。
	音読テスト(Seasons Poem)	8			
	Impromptu Speech (Praise Everything)	6			
	Interview Test (Nobel Novel Prize)	7			
	Super Presentation (TV Shopping)	7			
B /8	In-class Test (Cool Japan)	7	7	7	Cool Japan は面白かったです。マンガが海外にも人気だ何て知りませんでした。
	Final Exam (advertisement)	7			
C /8	Textbook Reading Test (end-of-term)	7	7	7	All New Very Easy True Storiesのテストはとてももったいないくらいミスが多かったの、よくテストの形式を見てから書くなど、それについての改善をしてみました。また、Louis Braille の物語は当時の現状を反映していてよかったです。これからは英語の読書を始めたいです。
	All New Very Easy True Stories Unit 7	8			
	All New Very Easy True Stories Unit 8	7			
	All New Very Easy True Stories Unit 9	6			
	All New Very Easy True Stories Unit 10	6			
	Final Exam (Louis Braille)	8			
D /8	Summer Grammar Test	8	8	8	Unit Writing は復習をしていなかったの、結果を見た時、「そりゃそうなるんだなあ」と思いました。だから冬休みはしっかり復習しておきます！ Verb Test は全部満点でよかったが、英語の文章を読むと全く知らない動詞がいっぱい、で「また」は「だた」だと怒りました。これから「書いて覚える」ことを意識し、頑張っていきたいと思っています。
	Seasons Writing Test	8			
	Verb Test	8			
	True Stories Unit Writing (Unit 1-4)	3			
	Writing Workshop (Pingu)	8			
	Final Exam (Grammar)	7			
2nd term Final Grade / 7					7
Effort	ノート	遅	自主課題	×	
	diary	遅	e-card	8 枚	
	Key ワーク (L6)	◎	Nobel Novel Prize (pink card)	○	
	Key ワーク (L7)	○	音声データ (Praise Everything)	○	
	Key ワーク (L8+Reading)	○	1 学期 Report Card Reflection	○	
	ポスター (50 words poem)	遅	True Stories 速読読解 (L5-L10)	Excellent	
	読書感想文	○			
	英語学習にとっても前向きで良いですね。Diary も定期的に出してくれるので、楽しく読んでいます！ 提出物が遅れてしまうことが多々ありますので、しっかり管理するようにしましょう。今後の更なる成長を期待しています。				
S: Excellent! A: Very good B: Good C: OK D: Not good NI: Needs improvement					

*表面の Reflection には、各観点についての振り返りを書く。

Language B -English-

Reflection

Class 1-2 No. _____ Name _____

1. 今学期の英語の授業で学習したことをまとめなさい

まずは色々な単語です。Verb Test 以外にも、教科書 (Key Work)、True Stories、Seasons に関するものごとなど、沢山やりました。次は、「もののよさについて考えること」です。例えば Praise Everything では、インターネット、英語、友達のことなどものよさを考えて話すことが求められました。普段はそれらを考えずに利用している人も多いが、どうして使っているのか(または学んでいる、遊んでいる……)を考えるきっかけになりました。3つ目は、「英語の楽しさを知ること」です。TV Shopping を例に挙げると、仲間(ペア)と一緒に考え企画し、1つの活動を盛り上げることはとても楽しかったです。Nobel Novel Prize も、英語で本を読むことの楽しさを覚えてくれました。1学期の内容と比べ、「英語の趣味の世界」を作っているような感じがします。

2. 今学期のユニットクエスチョンの中から一つを選び、それに対する答えを具体例を交えて書きなさい

ユニットクエスチョン: What is good communication?

答え: TV Shopping の時のユニットクエスチョンの一つだ「が」、よいコミュニケーションとは、自分の情報、意見や考えを相手に発信し、相手からうまく情報、意見や考えを受け取り、スキャットボールによってお互いを向上させることだと思います。例えば、TV Shopping の時、私はペアと「飛ぶ」ことの表現の仕方について話し合っていたが、二人で意見を出し合っていた。私は肢体動作ではうまく表せないと考え、結局「絵」を使って表現しました。

3. 授業で学習したテーマや内容は、他教科で学習した内容とどのような関係やつながりがあるでしょうか

Cool Japan の学習(テーマ)は社会科に結びついていると思います。日本の良さを見つけて、外国に宣伝するという Cool Japan は、日本の政策の一つです。社会科(特に世界地理)では、色々な時事問題や政策について話します。この Cool Japan が外国から来た観光客を増やし日本の知名度の向上を図ると共に、日本人にも自分たちの国の良さを知らせてもらえるのかなと思っています。

4. 授業で学習したテーマや内容は、相互作用エリアとどのような関係やつながりがあるでしょうか

[学習の姿勢・コミュニティと奉仕・多様な環境・人間の創造性・健康と社会教育]

学習の姿勢は教科書の内容の学習と深いつながりがあると思います。なぜなら、授業で配られた Reading Sheet で近くの人とコミュニケーションをとることで学習意欲が向上し、積極的な学習の姿勢につながるからです。先生のレポートの後、自分から他の人にストーリーを紹介する Story Telling も活発的な学習と関係しています。

5. 今学期のどの学習において、特にどの IB Learner Profile を実現できたでしょうか。なぜそう思うのですか。

Seasons Poem で考える人 (Thinkers) です。初めてホエムを読んで音声データにして提出した課題だが、「どういう風に読むか」、「どうすればもっとよくなるか」を一生懸命考え、改善をしていました。だから、音読テストで実現できた IB Learner Profile は考える人だと思っています。

6. 今学期の学びのなかで、「多様」および「共通」だと感じたことがありますか。それは何ですか。

多様だと感じた学びは、True Stories です。「本当の話」だと思えない話が沢山で、「世の中に色々な出来事があるな」と思いました。例え全く信じられないような話や出来事があったとしても、本当かもしれない。そういう疑う態度も学習の姿勢だと思っています。

共通だと感じた学びは、Praise Everything です。何もよい一面と悪い一面を持っていることを感じたからです。そんな共通点は私たちに何がよいのか? 何が悪いのか? を考えさせてくれます。

【資料Ⅲ】

生徒は「英語力」に関してどう実感し振り返っているのか。

1 あなたの英語運用能力について、入学後一番伸びたと実感する力はどれですか。

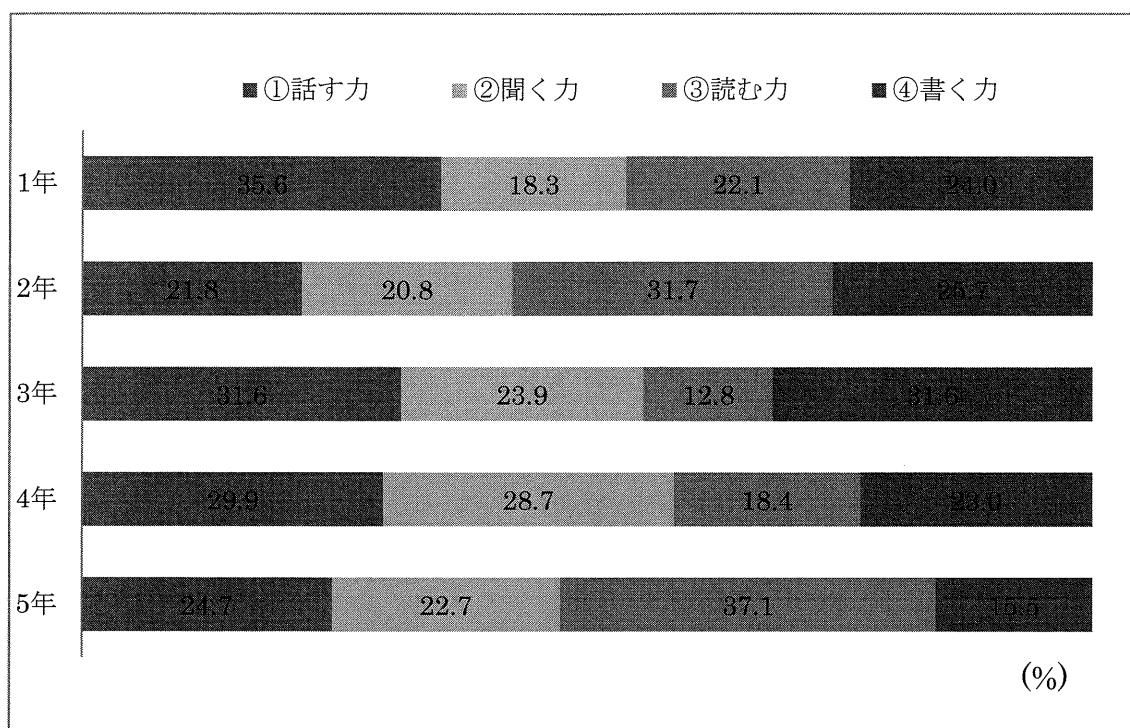
○で囲んでください。

①話す力

②聞く力

③読む力

④書く力



- 2 英語力を伸ばすためにどのような学習活動が役に立っていますか。4段階から選んで○を記入してください。クラスによって指導内容が異なります。関係ない項目は未記入でかまいません。
- ⇒ とても (4) だいたい (3) あまり (2) まったく (1)

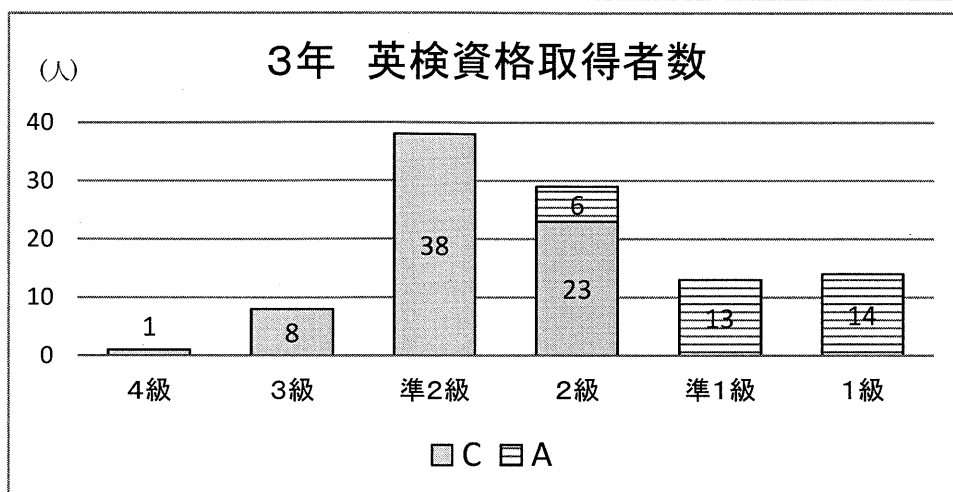
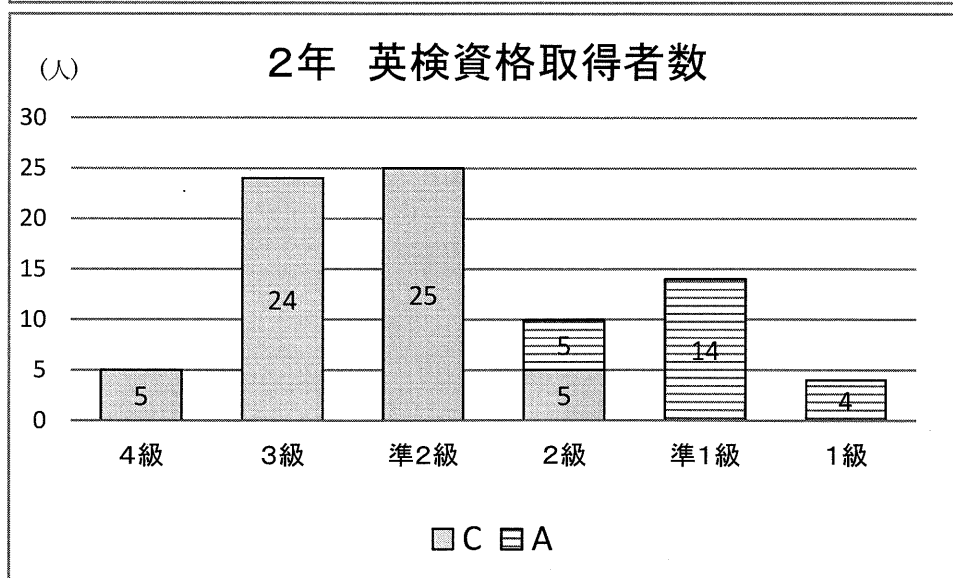
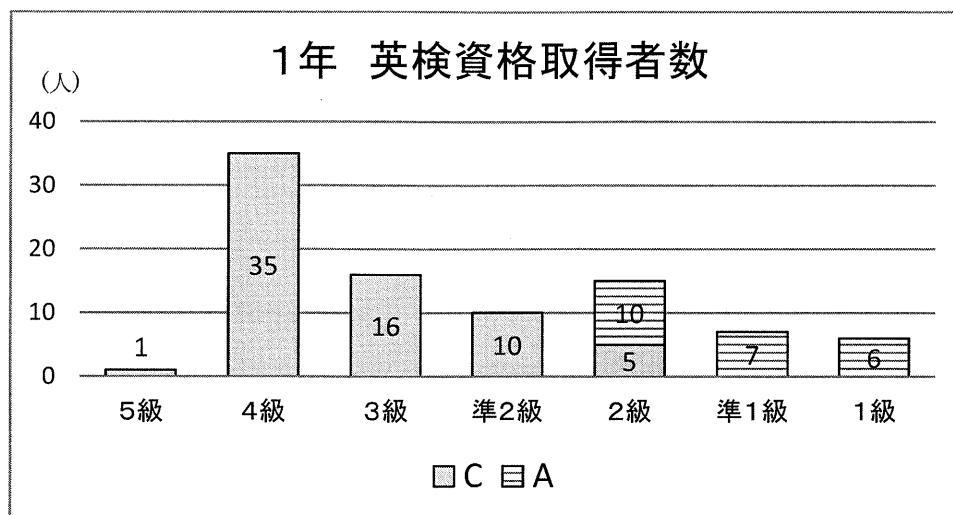
	1年	2年	3年	4年	5年	全体
①オール英語での授業	3.63	3.56	3.41	3.42	3.34	3.47
②即興型スピーチややりとり	3.4	3.51	3.49	3.56	3.32	3.45
③インタビューテスト	3.25	3.42	3.1	3.11	3.15	3.22
④ディスカッション	3.39	3.47	3.47	3.42	3.31	3.4
⑤準備型スピーチやプレゼン	3.48	3.34	3.48	3.21	3.3	3.37
⑥音読活動	3.35	3.19	3.08	3.05	3.08	3.16
⑦多読活動	3.36	3.23	3.3	3.19	3.22	3.26
⑧速読活動	3.1	3.05	3.17	2.9	3.17	3.08
⑨文学（詩・小説・劇）学習	3.31	3.09	3.2	2.96	2.95	3.11
⑩エッセイや英作文テスト	3.33	3.39	3.46	3.4	3.49	3.41
⑪ボキャブラリー学習	3.57	3.59	3.42	3.3	3.45	3.47
⑫文法学習	3.63	3.46	3.36	3.24	3.16	3.38
⑬期末試験	3.32	3.07	3.04	2.79	2.93	3.04
⑭レポート作成	3.05	2.99	3.13	2.91	2.85	2.97
⑮リサーチ	3.07	3.1	3.08	3.04	2.73	2.99
⑯LEでの学習	3.19	3.4	3.2	2.63	2.8	3.14
⑰他教科の学習	2.74	2.93	2.74	2.69	2.54	2.72
⑱自主学習（日記・作文など）	3.19	2.91	2.7	3.2	2.73	2.86
⑲資格試験勉強	3.4	3.32	3.24	2.77	3.14	3.26
⑳コンテストへの参加	2.62	3.08	2.59	2.81	2.58	2.72
㉑補習・勉強会	3.07	3.17	2.93	3.01	2.74	2.94
㉒ペアワーク	3.3	3.22	3.1	3.19	2.75	3.09
㉓グループワーク（プロジェクトを含む）	3.35	3.38	3.25	3.67	2.92	3.22

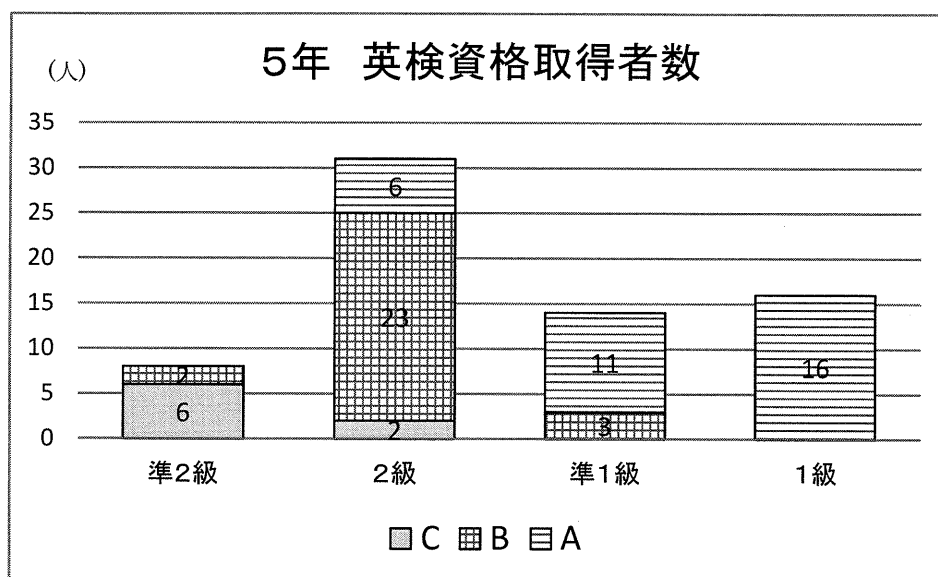
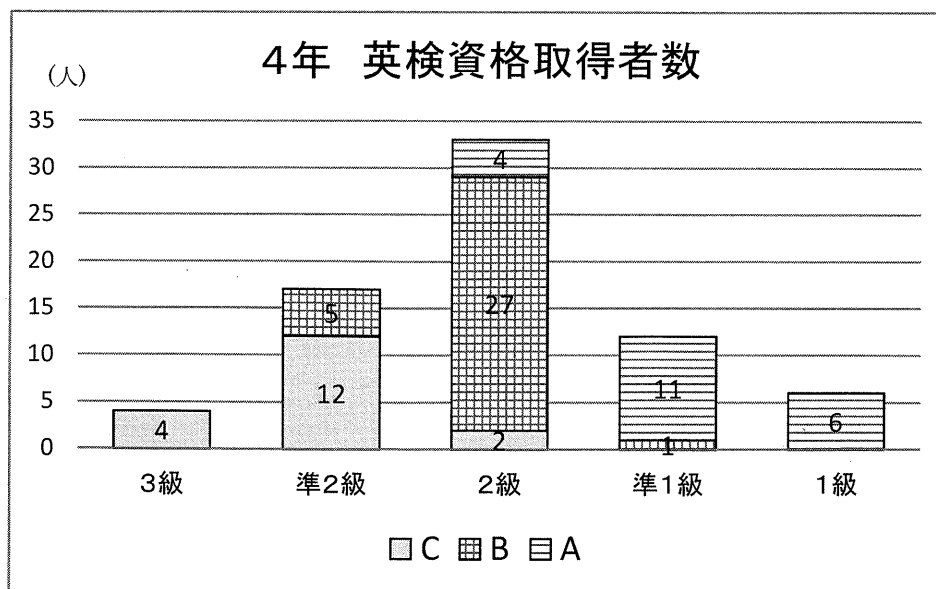
【資料Ⅳ】

外部資格試験からみる本校の生徒の英語力はどのぐらいか。

英検資格取得者数（2014年3月時点）

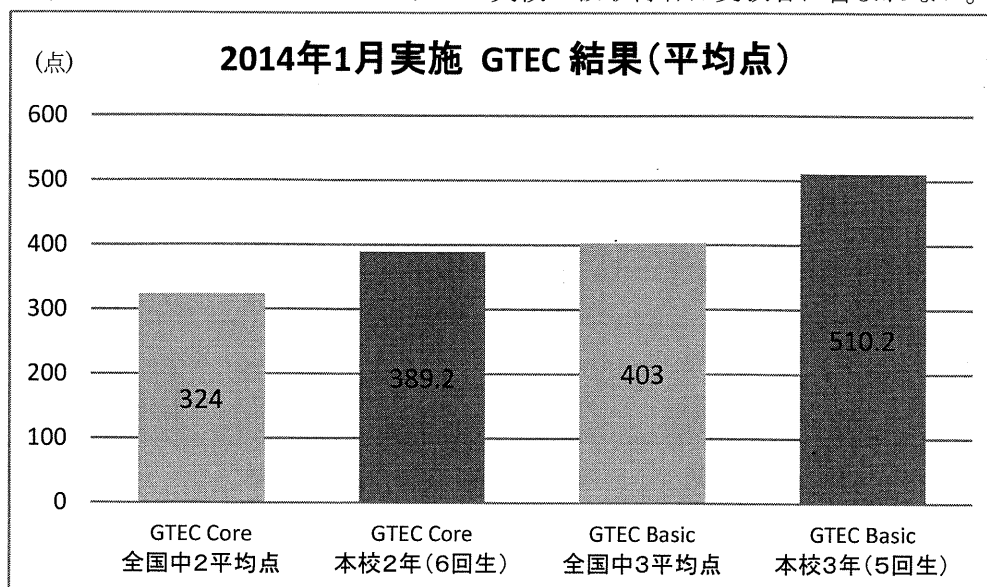
A：アドバンストクラス B：ベーシッククラス C：コアクラス



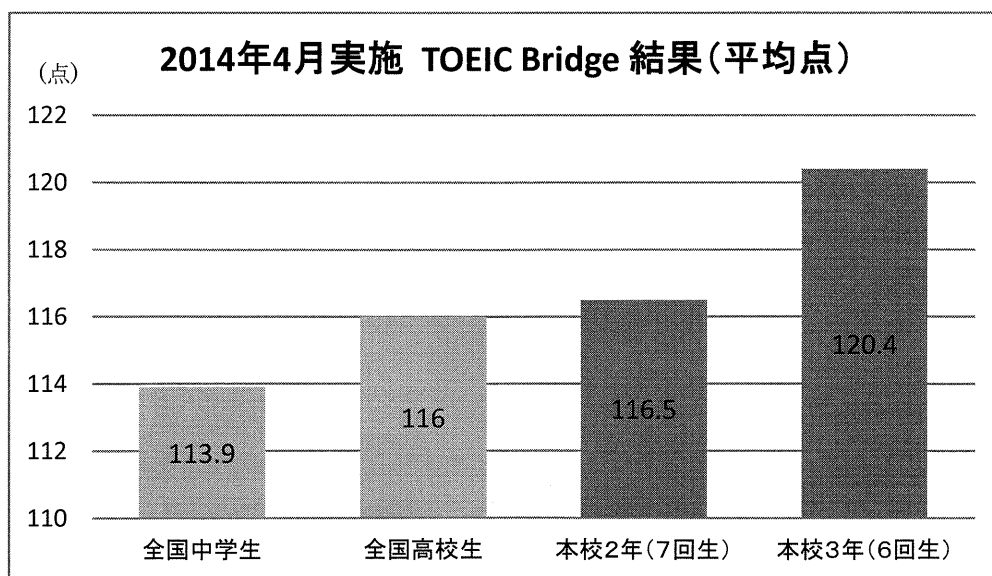
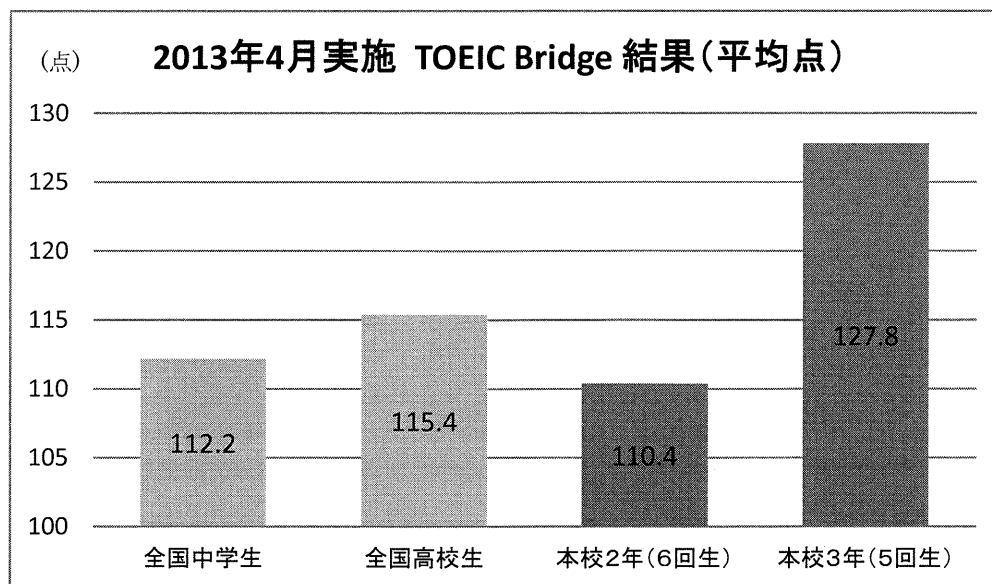


コアクラス

*コアクラスの英検2級取得者は受験者に含まれない。

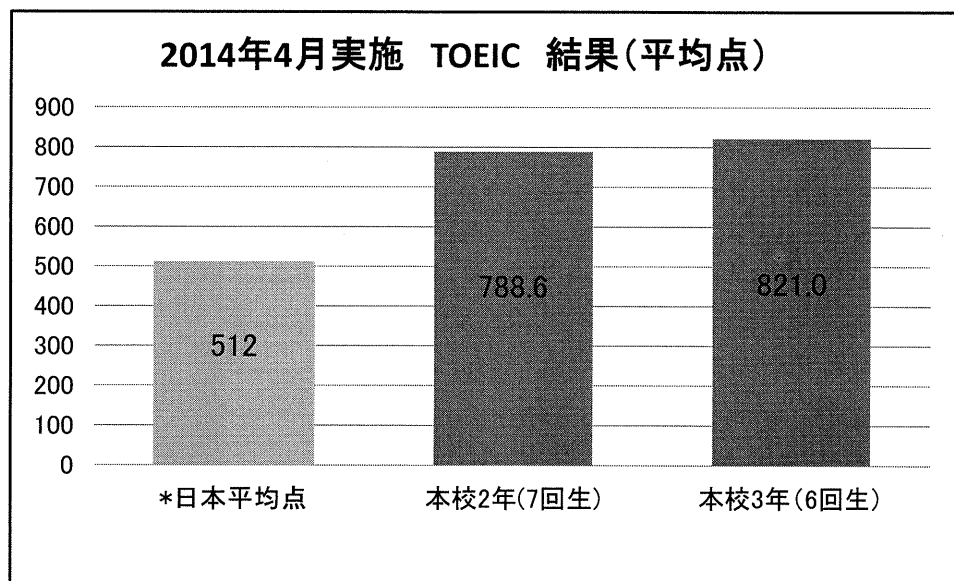
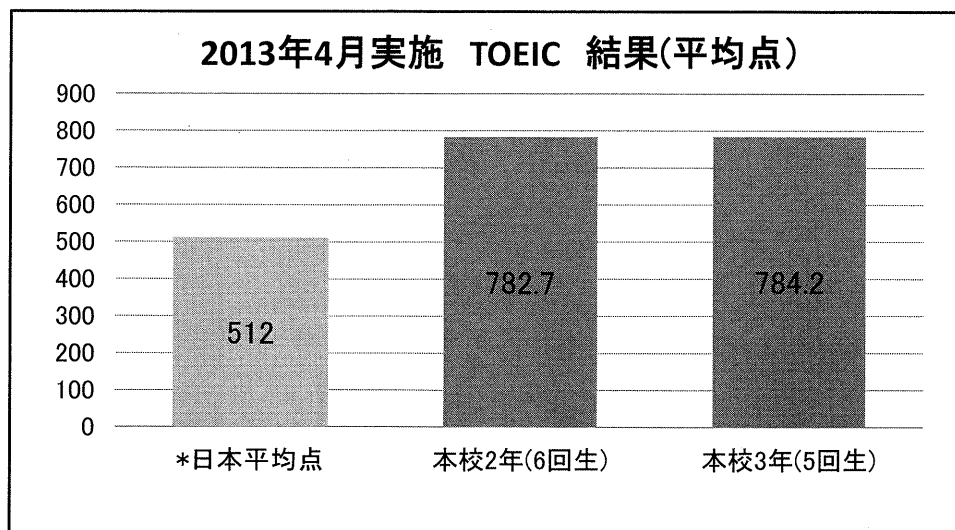


コアクラス



アドバンストクラス

*コアクラスの英検2級取得者を受験者に含んでいる。



*日本平均点
「TOEIC テスト World Wide Report 2012 <抜粋>」より

入学前の英語学習歴

12 あてはまるものの記号に○をつけ、具体的に記述してください。

A 小学校の外国語活動の授業を受けたくらいで特別には勉強していない。

B 英会話教室、塾などで1年以上の勉強したことがある。

(施設名 受講期間 年)

C 海外教育機関または国内インターに在籍したことがある。

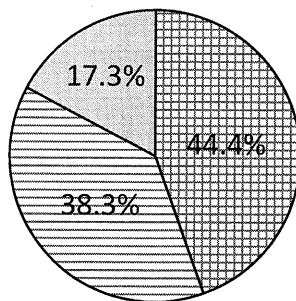
(国名 現地校・インター・日本人学校 在籍期間 年)

D その他

(

1年 コアクラス 入学前の英語学習歴

■ A ■ B □ C



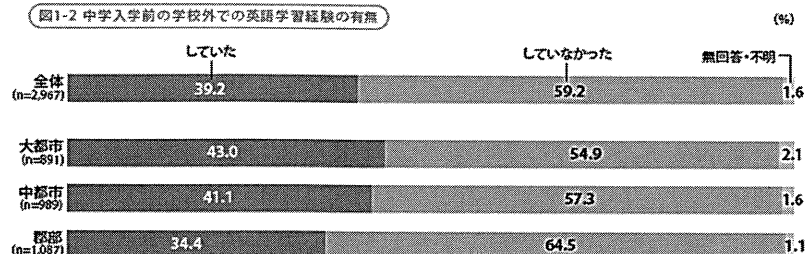
2013 年度の第1 学年コアクラス在籍 77 名

中学入学前の学校外での英語学習

約4割が、中学入学前に学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしていた。
種類については、「学習塾」「英会話教室」がそれぞれ4割以上と高い。

Q. あなたは中学校に入学する前(小学生の時やそれ以前)に、学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしていましたか。

図1-2 中学入学前の学校外での英語学習経験の有無

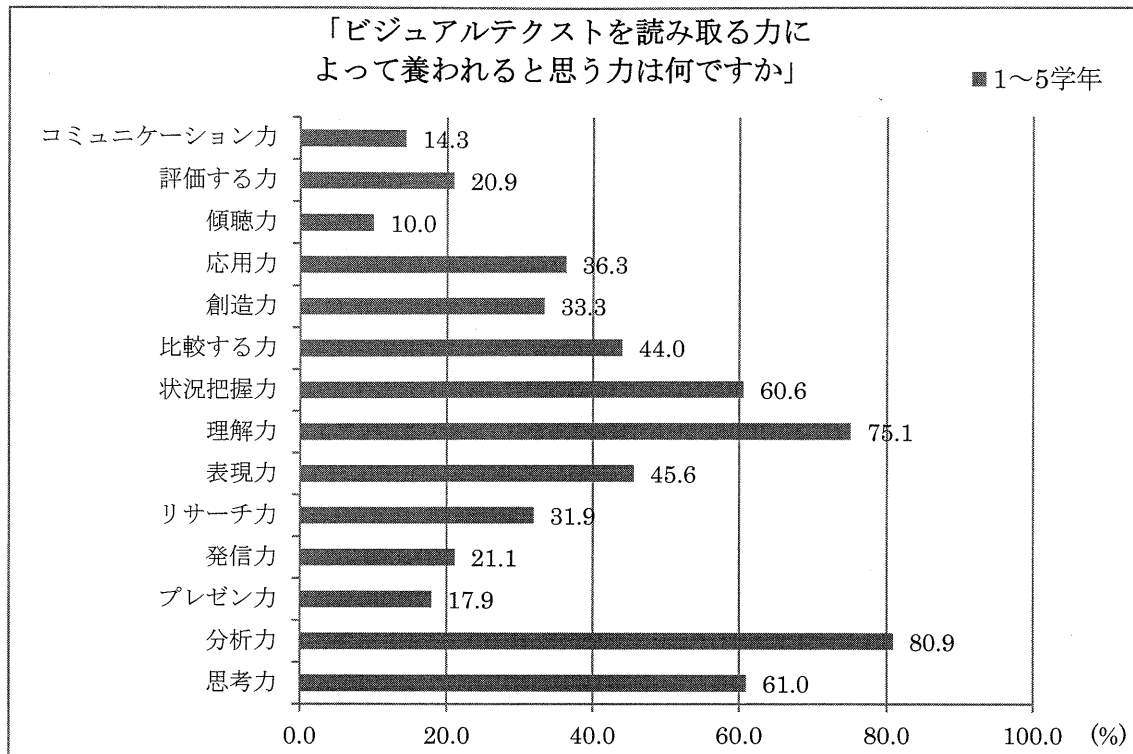


『ベネッセ第1回中学校英語に関する基本調査』

【資料V】

生徒はビジュアル・インタープリテーションをどう評価しているか。

- 4 ビジュアルテキストを読み取る力が伸びると、どのような力が養われると思いますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。



- 5 それはなぜですか。一つ選び、説明してください。

○思考力

- ・情報が何を表しているのか、他の情報とどのような関わりがあるのか考える必要があるから。
- ・理解するためにいろいろな角度から物事をみるために色々な角度から物事をみるため。また理解しようと一生懸命考えるため (4年A)
- ・理解の上に、自分の意見を述べたりしないとならないから。(3年C)
- ・文字が多く使用されていないビジュアルテキストは書いた側の意図を考えながら読み取ることが必要だから。(3年C)
- ・題材そのものが何であるんだろう、どんな人が誰のために？などのことを考えることにより思考力、発想力が増すと思うから。(1年C)
- ・ビジュアルテキストは想像力がないと理解できないと思うから。(1年A)

- ・ビジュアルテキストは考えないと何も始まらないから。(1年A)
- ・図・表・広告・漫画などは文字数が少ないですが、絵などからも多くの情報を得ることができます。そうすると、どことどこがどう関係しているのか、などをいろいろなものを関連づけて考えることになるからです。(2年C)
- ・ビジュアルテキストを見る、分析する、理解する、自分の考えを持つ…全ての段階で思考力が必要だから。また、色々な視点から考えてみることも大事。(3年A)
- ・批判的に情報を読み取れることで、自分の思考を発展させられるから。(4年B)

○分析力

- ・Visual Interpretation では図や表を見て正確にとらえることが重要。図や表を分析することができる。(3年C)
- ・細かいことよりも傾向を把握することができるようになった。(1年A)
- ・海外に行ったときに、実際に広告や看板を目にしたとき、それを分析できるようになる力を養っていると思うから。(2年C)
- ・読み取る際にどのようなことがあるからこのようなことが言える、というように情報を分析することで読み取れると思うから。(4年B)
- ・ある情報からいろいろなことを結び付け、製作者の考えを読み取るためにひつようだと思うから。(4年B)
- ・初めて見るビジュアルテキストに柔軟に対応することができる。(4年B)
- ・与えられた情報の中で、それについて何が言えるのかということ自分の知識と関連させて考えることになるから。・文章、図、映像などから、いかに情報を集め理解できるかが求められているから。(5年)
- ・いろいろな情報媒体から読み取った情報を統合して分析する必要があるから。(5年)
- ・たくさんの情報の中で正しいものを分析する力が身につくと思う。(5年)

○プレゼン力

- ・資料から読み取り、多くの資料を使うことによってプレゼンで相手に必要な情報を伝えることができる。(1年C)
- ・ビジュアルテキストを読み取る力が伸びることによって問題などの根本を見つけ効果的に発表、提示する力が伸びると思った。(1年C)
- ・自分が読み取ったことを、そのまま終わらすのではなく、相手に分かりやすいように伝えるまでが大切なことだと思う。(4年B)
- ・効果的な図の使い方や映像・画像の使い方を学ぶことができる。(5年)

○発信力

- ・ビジュアルテキストを読み取る力が伸びればそのビジュアルテキストの工夫しているところが見えてきて、自分でもその工夫をつかって発信していく力が伸びると思ったから。(1年C)
- ・ビジュアルテキストを読み取ることで、その図が何を伝えたいのかが分かり、それを次は自分が発信させることができるから。(4年B)
- ・社会に出回っている広告などから、自分で作る時の参考にすることができる。色々な人の心

に訴えかけられえるような発信力も身につくことができると思う。(5年)

○リサーチ力

- ・ビジュアルテキストを読み取る力が伸びると、何か知りたいときにビジュアルテキストから知りたい内容を探し答えを見つけるといことができるのでリサーチ力が養われると思う。(1年C)
- ・ビジュアルテキストを読み取る力が伸びることで、リサーチする際にインターネットの情報をきちんと読み取れるようになるため、リサーチ力が伸びる。(4年B)
- ・データを適切に理解する力が鍛えられる。(5年)

○表現力

- ・効果的に図や表をパワーポイントに入れプレゼンができるようになると思ったから。(3年C)
- ・いろいろな形のビジュアルテキストを見て様々な表現の仕方について学べた。(3年C)
- ・読み取ったものを自分の言葉に変えるから。(3年C)
- ・いろいろな表現を身に付けることで様々な視点から読み取れるようになるから。(1年C)
- ・ヴィジュアルテキストがあると説得力が増すので使いたくなるから。(1年A)
- ・ビジュアルテキストを読み取ることによって、どういうものが何を表しているのかを知ることができ、それを自分が何かを伝えたいときに、その知識を使い、表現することができる。(2年A)
- ・相手の表現がわかれば、自分の表現のバリエーションも増える。(4年A)
- ・ビジュアルテキストの長所短所を発見し、それを踏まえた創作活動をすることでより効果的な表現ができると思う。(4年A)
- ・ビジュアルテキストを読んで／見て感じたことを英語で表現するということはためになる。(4年B)

○理解力

- ・英語力が向上することによって英文読解力及び英語の理解力も上達するから。(3年C)
- ・絵と文字両方からの情報で考えるため。文字だけよりもイラストからさらに考えることができるため。(3年C)
- ・ビジュアルテキストがテーマとどう関係あるのかよく考えた。(1年A)
- ・文章ではないものから理解をしようとする力がついた。(1年A)
- ・繰り返し行うことでいろんなことを学んでアンテナをはり、理解が早まる。理解力がついてくる。(4年A)
- ・指定された情報源からどれだけ多くの情報を読み取り、理解できるか。(4年B)
- ・図や表などと英文を照らし合わせながら読もうとすることで広い範囲での理解力がつく。(4年B)
- ・その文書が誰に対して、どのような目的で作られたのかを理解する必要があるから。(4年B)
- ・製作者側がなぜそのビジュアルテキストを使用したのかを考えることで、より理解が深まると思う。(4年B)
- ・限られた情報で、その状況を理解する力が身につくと思ったから。(4年B)

- ・たとえば広告などでは、商品を説明する英語の長文ではなく、少ない情報だけでそこからどういった広告なのかを読み解くから。(4年B)

○状況把握力

- ・与えられたわずかな情報だけで状況を把握しなければいけないため、状況把握力が養われる。(4年A)
- ・生活していくために私たちは様々な情報を整理し分析しています。なぜそうするかというと、私たちの立場や状況、利害関係を把握するためです。だからビジュアルテキストを読み取る力はとても大切です。(1年C)
- ・一つのビジュアルテキストを読み解くにあたって視野を広げて状況把握ができたと思う。(3年C)
- ・ビジュアルテキストを読み取ることによって、一目でどのようなことが起きているのかを把握する力がつく。(3年A)
- ・掲示を見ただけで瞬時に理解していくことが必要だと思ったから。(3年C)
- ・自分だけでなく様々な異なる立場になって考えることが大切だと思ったから。(3年C)
- ・スピーチとビジュアルテキストとを総合して理解することができた。(1年A)
- ・短い時間でその内容を読み取る力が伸びれば、英語であっても状況把握をすぐにできると思うから。(4年B)
- ・絵(地図や案内表示なども)を見るときや、新聞を読むとき、それをこと細かく英語でインプットするには、その状況を把握できる必要があり、状況把握力が養われると思う。(4年B)
- ・明確にビジュアルテキストを読み取ることで、より正確で素早い状況把握ができるようになるから。(5年)
- ・看板に書かれている注意を読むだけでも、その場の状況を理解することができるから。(5年)
- ・実際の英字新聞では、その時に起きた事故や事件について書かれているので、ビジュアルテキストを読み取る力が伸びれば、社会の状況を把握する力が養われると思う。(2年C)

○比較する力

- ・多様な図や表からではそのそれぞれのプロジェクトに対するデータなどが表示されそこからどのようなことを読み取るのか考えて分析しまた他のデータを比較したりするから。(3年C)
- ・同じ表現方法でも、焦点はそれぞれ違ってくるため、比較できれば新たな視点を手に入れることができる。(5年)

○創造力

- ・ビジュアルテキストがどのようにして創造されどのような意図が込められているのか考えるから。(3年C)

○応用力

- ・様々な情報を街中から得られる。その情報は表現の仕方や内容などにいかせる。
- ・外国の広告では環境状況を表しているものが多くあり、それを見て今の現実を理解しどのよ

うなことが自分にもできるかを考え行動できると思います。(3年 C)

- ・大体のビジュアルテキストでは、普段はあまり使わない省略された英語などがよく使われるので、基礎的な英語を身に着けたうえでもさらなる英語力が必要になる。(4年 A)

- ・見て、読み取った情報をいかに、自分がすでに知っていることとつなげ、自分の中での意見をまとめることが必要とされるから。(4年 A)

- ・書いてあることだけではなく、レイアウトや写真から書かれていないことを読み取ることで、応用力が身に付くと考えから。(4年 B)

- ・普段の学習で培った英語の読解力を、日常生活で利用するための現実的な練習材料であるから。読み取ることができるようになるばかりでなく、自分が情報を提示したいときに参考(お手本)にできる。(4年 B)

○傾聴力

○評価する力

- ・表を読み取ってこれはこうだからあんなものと比べるとこのような良い点と悪い点があるんだなと考えることができるから。(1年 C)

- ・CMや広告などの宣伝が、自分や周りのひとに影響しているかしていないか、印象に残りやすいかどうかを考えることができる。(3年 A)

- ・その文章をどう思うか、その文章に書かれていることは正しいのかなどを考えることができる。(4年 B)

- ・複数の課題があれば、それぞれの情報を比べて分析することができ、情報の信頼性も評価することができる。(5年)

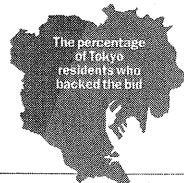
○コミュニケーション力

- ・自分の理解が深まれば相手に分かりやすく伝えることができる。そしてそれが積み重なれば最終的によいコミュニケーションをとれるようになると思う。(1年 C)

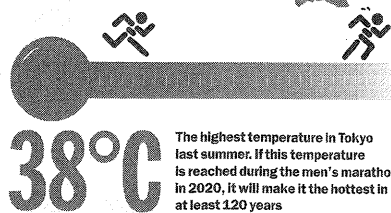
On your marks...

We're over the first hurdle... but there are a good few laps to go yet – not to mention a whole Olympic Games in Rio. Here's a glimpse through the afterglow of what's in store for Tokyo between now and 2020

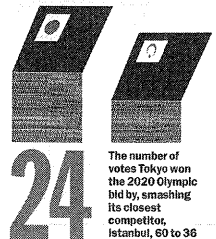
70%



The percentage of Tokyo residents who backed the bid



The highest temperature in Tokyo last summer. If this temperature is reached during the men's marathon in 2020, it will make it the hottest in at least 120 years



The number of votes Tokyo won the 2020 Olympic bid by, smashing its closest competitor, Istanbul, 60 to 36

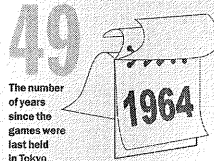
37

The number of Olympic venues in total

116 MILLION

The number of Japanese people smiling when Tokyo won the bid*

*According to Tsunekazu Takeda, the president of the Japanese Olympic Committee and Tokyo 2020 Campaign



The number of years since the games were last held in Tokyo

TENS OF THOUSANDS OF NEWSPAPERS RECALLED!

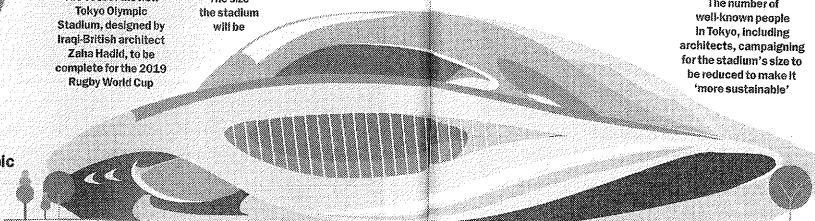
... after Xinhua News Agency in China mistakenly reported that Istanbul had won the bid

¥300 BILLION YEN

The cost of the new Tokyo Olympic Stadium, designed by Iraqi-British architect Zaha Hadid, to be complete for the 2019 Rugby World Cup

250,000M*

The size the stadium will be



100

The number of well-known people in Tokyo, including architects, campaigning for the stadium's size to be reduced to make it 'more sustainable'

The number of Japanese athletes who have ever failed a drug test at an Olympics or Paralympics

0

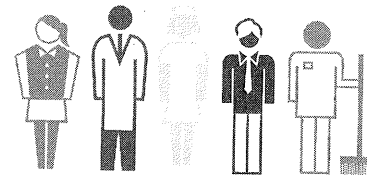
¥3 trillion

The amount the government estimates the games may generate in other spending, including:

... ¥162 billion on marketing activities and the like...

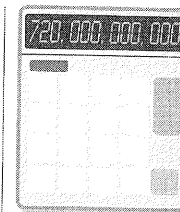
... ¥228 billion on extra household consumption...

... and ¥176 billion by athletes and spectators



150,000

The number of temporary jobs predicted to be created by the games



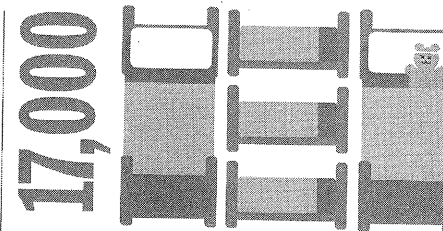
¥720 BILLION

Total planned spending on the games*

*Including operations and capital expenditure



The number of Olympic venues to be built from scratch



The number of beds the Olympic Village will house

How Tokyo won the bid

The 2020 Olympics story



Screaming hysterically, the nation took 'maniacal' to a new level in September this year at the Tokyo's successful bid to host the 2020 Olympic Games. Here it happened...

● Jacques Rogge, president of the International Olympic Committee (IOC), endorsed Japan's slogan 'safe pair of hands', also saying quite sure Tokyo 2020 will put athletes at the centre of the

● Tokyo's multilayered pitch with the official line: a speech Princess Takamado, the first of the Japanese Royal Family, a personal address to the IOC

● Next up came the emotional appeal, from Paralympian Hiroyuki Sawada who explained that he saved her from the depths of 'despair' after she had lost her leg to cancer. She also described how 'Olympic values' had helped her home town recover after it was struck by the 2011 tsunami.

● The bid wobbled slightly when Furoku was mentioned: that is, the issue of the ongoing media site around Fukushima's nuclear power plant. But Japan's prime minister Shinzo Abe, swiftly came to the defence, saying, 'It has never been said it will do any damage to the

● Backed up by a modest but (a piffing US\$3 billion), an internationally renowned public transport system; existing but ready and waiting to be used; a healthy economy and with the world's most innovative architect Dame Zaha Hadid, on board to design the Olympic stadium, was looking pretty good.

● But the crowning glory was a squeaky-clean drug record, as pointed out: not one single Japanese athlete has ever failed a doping test. Which is perhaps the best demonstration of how seriously the country takes its sport. As the Japanese proverb 'jigoku toku' testifies, you reap what you sow

Abstract

The TGUISS Foreign language department has conducted a study to understand the impact of the back-ward designed and inquiry-based curriculum that reflects the Learner's profile, and criterion-based assessment of the International Baccalaureate. The study based on questionnaire and external exams revealed that the curriculum has contributed to enhancing the target qualifications and abilities. The study further suggested that the curriculum developed English proficiency of the students.